

長根だより

令和4年3月15日

No. 11

長根小 学校通信

【校訓】

強く

明るく

よく励む

感謝、感謝の1年でした

長根小学校長 弓削 善靖

今年度もコロナ禍の下でたくさんの制約を受けて過ごした1年となりました。とはいえ、人間の適応力というのはなかなかのもので、2年前の今頃はコロナに怯え、制約だらけの生活に息が詰まるような思いですごしていたものでしたが、やがて大人たちは大人たちなりに、そして子どもたちは子どもたちなりに、こうした状況の下でも力強く生きていくエネルギーを作り出すようになってきました。今では、コロナに勝つとか負けるとか、そうしたことを超越したレベルにある子どもたちのエネルギーに支えられ、長根小学校の教職員たちも力強く教育活動を進めています。

この「長根だより」と同じ日に配付される「ねこSAPO通信」にも載せられていましたが、今年度長根小学校でボランティアとして活動してくださった方々の延べ人数は、軽く1000人を超えています。たくさんの地域の皆様、保護者の皆様に支えられながら、この状況下でもこのようにコミュニティ・スクールの体制を整えることができたのは、まさに大人たちの力強く生きるエネルギーのおかげであると思います。

『〇〇ができないので、代わりに△△で我慢してもらうことにする』という発想にとどまるのでなく、『〇〇はできないけれども□□にすれば、〇〇よりも素敵な活動になる』というエネルギーで発想力に満ちた長根連区の皆さんに支えていただきました。長根小学校も、たくさんの学校行事をこれまで通りには行えませんでした。長根連区の皆さんの様子を見習い、様々な方法でより喜んでいただいたり楽しんでいただける方法を模索し続けてきました。これも長根連区の地域の皆さん、保護者の皆さんのお力添えのおかげです。本当にありがとうございました。

来年度も、地域・保護者・学校が一体となって子どもを育てるコミュニティ・スクールの長根小学校をどうぞよろしく願います。



左：校庭で実をつけた夏ミカンをマーマレードに

右：子どもたちの感謝の手紙にお返事をいただきました

SST (ソーシャルスキルトレーニング)

今年度もたくさん取り組みました

本校では「にこにこタイム」というネーミングで、子どもどうしがコミュニケーションをとる練習を月曜の朝に行っています。

昔のように地域での子どもどうしの関係構築が難しくなっている現在では、相手のことを思いやって行動したり、協調的に行動することの大切さを学ぶ場所が少なくなっているといわれます。

幸いなことに長根連区にはふれあいセンター“連”があり、子どもたちが安全に遊べる場所が提供されていたり、家に帰ってから再び学校へ来て友達と遊ぶという習慣があったりしますが、さらに自他肯定の気持ちを醸成するべく、こうした場面設定をして練習をするわけです。

今年度は、25回のにこにこタイムを実施しました。友達との関係を良好にするきっかけとなっていればとてもうれしいです。



友だちのがんばりに拍手！

やがていっしょに

3月7日(月)、長根公民館横の「いこいの家」で、第1・第2クラブが「ボッチャ研修会」を行いました。

以前、コロナがまだ流行っていなかったころ、県の老人クラブの交流会があり、クロリティやグラウンドゴルフでは優秀な成績をおさめたものの、ボッチャに関してはルールもわからなかったので惨敗を喫し、それが悔しくてならなかったというお話を第1クラブ会長のTさんから聞いていました。なんとか力になりたいと思っていたところでしたが、コロナ禍のためなかなか実施ができませんでした。やっと今回無事に、本校の3年主任のNさんを講師に実施することができました。

本校でも昨年から子どもたちがボッチャに取り組むようになってきています。互いが腕を磨き、やがて長い休み時間や体育の時間に、第1・第2クラブの皆さんと子どもたちがボッチャで交流することができるようになったらとてもうれしいです。

今年度、実現できませんでしたが、芝生広場では、グラウンドゴルフ、体育館ではボッチャ、そしてねこSAPOルームでは将棋やオセロに興じる地域の皆さんと子どもたちの姿を見ることが、定年を間近にした私の勝手な夢でもありました(私事で恐縮です)。



いこいの家でのボッチャ研修会

